

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農業水産業費 項：農業費 目：農業研究費

事業名 農業技術センター試験調査費（国補・県単）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農業技術センター 電話番号：058-239-3131（内101）

E-mail：c24401@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 20,440 千円 （前年度予算額：21,099 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	21,099	60	0	0	416	0	17,802	0	2,821
要求額	20,440	34	0	0	732	0	16,853	0	2,821
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

県内農業は、生産者の高齢化・担い手不足、資材の高騰、国際化による安価な輸入農産物との競合等、大小の様々な問題が発生しており、これらに迅速に対応することが求められる。

これらの課題を解決するため、普及機関等の関係機関との連携を強化し、生産現場からのニーズを的確に捉えた研究開発を実施する。

(2) 事業内容

地域の農業が抱える多様な課題に対し、機動的・即応的に対応するため、以下の研究開発課題を実施する。

（県単試験調査費）

- ① 水稻の多様なニーズに応えるオリジナル新品種の育成
 - ② 気候変動に適応する小麦高品質安定生産技術の開発
 - ③ 新規需要の創出に向けたオリジナル花きの育成
 - ④ 地域資源を活用した環境にやさしい循環型鉢物栽培の確立
 - ⑤ 県育成イチゴ品種の障害果発生を抑制する栽培技術の確立
 - ⑥ 自殖系統を活用したイチゴの新品種育成
 - ⑦ 岐阜県方式のトマト養液栽培で発生する根腐病および立枯病対策技術の確立
 - ⑧ イチゴ栽培の農薬と天敵のベストミックス防除体系の確立
- 他 計 19 課題

（国補試験研究費）

- ① 農地土壌温室効果ガス排出量算定基礎調査事業

(3) 県負担・補助率の考え方

—

(4) 類似事業の有無

—

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	1,445	試験・研究に関わる現地調査、研究会、学会等への移動経費
需用費	16,025	試験・研究に関わる消耗品費、燃料費、光熱水費、機器修繕費等
役員費	183	試験に関わる通信運搬費、手数料
委託料	100	試験に関わる業務委託料
その他	2,687	試験に関わる備品購入費、学会参加負担金等
合計	20,440	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業・農村基本計画」(R3～R7)では4つの基本方針「ぎふ農業・農村を支える人材育成」、「安心して身近な「ぎふの食」づくり」、「ぎふ農畜水産物のブランド展開」、「地域資源を活かした農村づくり」を定めている。これに基づき研究開発・地域支援を実施する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県内農業の地域ニーズや現場の抱える課題を積極的にとりあげ、関係機関と連携して効率的な研究を進め、県内農業振興に貢献する技術開発を進める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
①技術移転の推進	—	17	19	20	20	85%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 3 年度	<p>研究課題の設定では、生産現場からの技術的ニーズを的確に収集し、9件を県単研究課題として実施すると共に、外部資金を含め19課題を実施した。これにより、「AIを活用した病害虫の画像診断技術」、「切花用フランネルフラワーの新品種「ぽてこ」の育成」、「県内水田土壌のリン酸緩衝液抽出による可給態ケイ酸の実態と改善目標」など多くの技術を開発し成果が得られている。</p> <p>指標① 目標：20 実績：19 達成率：95%</p>
令和 4 年度	<p>研究課題の設定では、生産現場からの技術的ニーズを的確に収集し、8件を県単研究課題として実施すると共に、外部資金を含め17課題を実施した。これにより、「水稻新品種「清流のめぐみ」の開発」、「ローダンセマムにおける黄色系花色品種の育成」、「土地利用型作物における確保すべき交換性カリ含量と収支に基づく施肥法」など多くの技術を開発し成果が得られている。</p> <p>指標① 目標：20 実績：17 達成率：85%</p>
令和 5 年度	<p>令和7年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>生産資材や燃料の高騰、国際化による輸入農産物の増加、高齢化に伴う担い手の減少、異常気象の頻発等、農業は重要な諸課題に直面している。研究による新技術の開発と技術的な支援を迅速に行うことは、本県農業の発展と振興に大きく貢献しており、事業の必要性は極めて高い。</p>
<p>・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>生産現場からの技術的なニーズを的確に収集し、主要品目の栽培技術開発、新品種の育成、さらには病害虫対策や施肥技術に係る事項を課題化し、本県の農業生産振興に寄与した。</p>
<p>・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 1	<p>課題については、毎年、実施予定の試験課題の設計、予算等の内容を十分に精査し、経費の削減に努めている。 さらに、関係各課により、予算額や各課題の事業効果等を考慮した精査が行われ、効率化が図られている。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 地域では大小の様々な課題が発生しており、これらに迅速に対応するため、普及機関等の関係機関との連携強化、情報の共有等をさらに進めていく。 また、得られた研究成果についても、関係機関と連携し、生産現場への迅速な普及に努めていく</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 今後も現場の諸課題を研究開発テーマとして取り入れ、現場ニーズに早急に対応できる技術開発に努めると共に、全国的な重要課題に対しても持てる技術を提供することで、岐阜県農業の発展に貢献していく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	